

# インターネットの萌芽から 飛躍をみつめて

NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 主席研究員  
株式会社デアイティ 安田 直義



インターネットは、当初の大方の予想や希望を遥かに超え、既に研究者の手を離れ自立発展的な展開を行うまでになってきています。社会基盤として認知され、市民生活の中に浸透してきたということでしょう。

日本で最初の商用プロバイダが設立された13年前頃(1992年末)は、今日の隆盛は半分以上冗談として語られていた記憶があります。10数年ほどの間にこれほど普及し社会への影響力を強めたのは、携帯電話と双璧を成すと言っても良いでしょう。今後も通信と放送の融合など、必然の流れに沿った大きなうねりに呑み込まれ統合化と分化が進むのだらうと思います。これをユビキタスと呼ぶのかもしれませんが。

インターネットの利用者は、7000万人を越えたり<sup>1)</sup>そうです。日本の人口は約1億2776万人<sup>2)</sup>だそうですから、老人から赤ちゃんまで含めて約55%の国民が何らかの形でインターネットを使っていることになります。

インターネットが犯罪などに使われたり、転落への道筋となっているのではないかという指摘がありますが、これは物事の一面でしかないと思います。確かにそのような事例も多いかもしれませんが、インターネットは今までできなかった個人と組織の圧倒的な格差を圧縮し、国境や地理的な格差もなくしてしまいました。少数派や日の目を見られなかった人たちもコミュニティを持てるようになったのです。この大衆が平等に議論に参加できるようになったことが、良くも悪くもインターネットがもたらした最大の成果ではないでしょうか。

輝く光が強ければ強いほど、遮るものの影の闇は深く濃くなります。この当然の原理がインターネットでも働いているのです。光だけを見てバラ色の世界を思い描くのも片手落ちですし、闇だけを見て恐れおののくのも芸がありません。全体を見て感じて自分の立ち位置を決めなければならないのだと思います。

ネットワークセキュリティは、多くのIT技術の中に要素として含まれ、それらが全体として機能して初めて効果が出るものです。また、技術の問題だけではなく、リテラシーや交通安全のように自分の身を守る基本的な約束事や知識でもあります。今までの経験や知見を生かすことができるのですが、法律などの抜け道があるのも事実です。技術面と運用管理面の双方から問題点を考えていくことが大切でしょう。JNSAのような中立的な団体の役割もこの辺りにあると考えています。

インターネットの萌芽に出会い、若葉の頃からの成長を見届け、立派な大樹に育った今、これからどのような森を築いて行くのか大変に楽しみです。ひとり立ちした子供を見るような感じかもしれません。これからは、『自分の人生を自分で決めて歩んでいくのだよ』と。

<sup>1)</sup> 財団法人インターネット協会監修。「インターネット白書2005」2005年6月21日発行。インプレス発行。6,800円+税。

<sup>2)</sup> 総務省統計局。「平成17年国勢調査 全国・都道府県・市区町村別人口(要計表による人口)」  
全国の人口。 <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/youkei/01.htm>